

(様式6)

町田 大輔 氏から学位申請のため提出された論文の審査要旨

題 目 Vegetable intake frequency is higher among the rural than among the urban or suburban residents, and is partially related to vegetable cultivation, receiving, and purchasing at farmers' markets: A cross-sectional study in a city within Gunma, Japan
(農村部住民の野菜摂取頻度は都市部・都市近郊部住民と比較して多く、その一部には野菜の栽培、もらい物、直売所での購入が関連している：群馬県1市での横断研究)
Journal of Rural Medicine 13:116-123, 2018
Daisuke Machida, Tohru Yoshida

論文の要旨及び判定理由

野菜・果物摂取量の増加は特定の慢性疾患罹患率や総死亡率の低下に寄与することから、摂取に関連する要因を特定することは重要である。本研究は、野菜栽培状況の異なる3地域(農村部、都市近郊部、都市部)において、地域レベルの野菜摂取頻度を検証し、各地区の野菜摂取量の差と、野菜栽培、野菜をもらう頻度、直売所での野菜購入頻度との関連を推計することを目的とした。方法は、群馬県内1市内の3つの地域にすむ20~74歳を対象とした横断研究である。3地域の全世帯(計2,260世帯)に、各世帯2部の無記名自記式質問票を郵送した。調査項目は、野菜摂取頻度、野菜栽培実施の有無、野菜をもらう頻度、直売所での野菜購入頻度、食料品の買い物難易度、暮らし向き、健康意識、及び基本属性とし、共分散分析を用いて野菜摂取頻度の1日当たりの推計平均値を算出した。586世帯(世帯回答率25.9%)から873人の回答を得た。欠損等を除く783人(農村部285人、都市近郊部295人、都市部283人)を分析対象とした。共分散分析の結果、農村部の住民は都市近郊部や都市部よりも野菜摂取頻度が高いことが明らかになった。さらに、<野菜栽培><野菜をもらう頻度><直売所での野菜購入頻度>で調整した結果、野菜摂取頻度の地域差が縮まったことから、これらは地域差の一部に関連していると説明できた。

本研究は、日本の地方都市での異なる地域レベルの野菜摂取頻度に対する個人レベルの要因の影響を初めて明らかにした研究であり、新規性ならびに独創性の高い研究であると評価できる。さらに、本研究の成果は、農村部において野菜摂取促進による健康推進の視点を含めた農業支援の価値の再考を促すものであり、わが国における健康政策と農業政策の融合につながる意義の高い論文と認められ、博士(保健学)の学位に値するものと判定した。

(平成31年1月15日)

審査委員

主査	群馬大学大学院教授 看護学講座	佐藤 由美
副査	群馬大学大学院教授 看護学講座	篠崎 博光
副査	群馬大学大学院教授 看護学講座	牛久保 美津子

参考論文

1. Negative association of vegetable cultivation with the proportion of severely insufficient vegetable intake both directly and indirectly: A cross-sectional study in a city within Gunma, Japan
(極めて野菜摂取量が少ない者の割合と野菜栽培との直接的・間接的な負の関連：群馬県1市での横断研究)
Journal of Rural Medicine 13:160-167, 2018
Machida D, Yoshida T
2. 野菜の栽培，もらい物，農産物直売所での購入の野菜摂取回数への影響
—食料品の買い物が困難かつ野菜栽培は盛んな山間農村部住民に焦点を当てて—
農村計画学会誌 37: 43-50, 2018
町田大輔，吉田 亨
3. 地域における野菜の栽培と地域住民の野菜摂取量との関連
—政府統計を用いた，都道府県レベルでの地域相関研究—
日本健康教育学会誌 25, 85-92, 2017
町田大輔，串田 修，吉田 亨
4. 野菜・果物栽培活動と健康関連要因との関係：
都市近郊部在住中高年男性の市民農園利用者に焦点を当てて
日本公衆衛生雑誌 64: 684-694, 2017
町田大輔，吉田 亨

5. 野菜・果物栽培活動実施者と非実施者それぞれの夏野菜栽培開始時期と収穫時期における野菜・果物摂取状況および身体活動状況の比較
—中高年男性の場合—
栄養学雑誌 75: 113-119, 2017
町田大輔, 吉田 亨

6. 群馬県内で行われた食に関する講習会受講者における自家製野菜の栽培と野菜摂取量との関連について
日本食育学会誌 10: 109-114, 2016
町田大輔, 尾上治子, 吉田 亨

7. 先進国の成人における自家製野菜の栽培・摂取と野菜摂取量との関連に関する系統的レビュー
栄養学雑誌 73: 62-68, 2015
町田大輔, 吉田 亨

(様式6, 2頁目)

最終試験の結果の要旨

研究の概念枠組みと統計解析方法について、野菜摂取量と健康との関連性について、および野菜摂取量の調査方法について試問し満足すべき解答を得た。

(平成31年1月15日)

試験委員

群馬大学大学院教授 看護学講座	佐藤 由美
群馬大学大学院教授 看護学講座	篠崎 博光
群馬大学大学院教授 看護学講座	牛久保 美津子

試験科目

研究の概念枠組みと統計解析方法について	Ⓐ・否
野菜摂取量と健康との関連性について	Ⓐ・否
野菜摂取量の調査方法について	Ⓐ・否